

犬を飼い始める事情は、重いほうがいい。

犬を飼い始める動機は何でもいいですが、まれに軽い動機で飼い始める人がいます。

「ペットショップに行ったとき、たまたま目が合ったから」

「友達から譲り受けて飼い始めるようになったから」

「何となく癒されるかなと思ったから」

動機は何でもいいですが、あまりに軽すぎる動機は少し不安があります。

犬を飼い始めるというのは、命を授かるのと同じです。

子供を産んで、育てるのと変わりません。

1カ月や2カ月で済む話ではなく、その犬が死ぬまで一生責任を持って、面倒を見続けてあげなければいけません。

家族がいるなら、家族全員の同意を得ることが必要です。

家族の一員として加わることになりますから、家族全員が関わることになります。

人の子を産んで育てるより、大変な面もあります。

人の子は、ある程度成長すれば、自分で食費を稼ぐ力を身につけ、いずれは自立し、親元を巣立っていきます。

そうなれば、親も子育てから解放されて自由になりますが、犬の場合、一生開放されることはありません。

犬は、いつまで経っても飼い主との関係が必要です。

面倒を一生見続ける必要があります。

犬を飼い始める前には「死ぬまで面倒を見続けられるか」という点から判断するのがポイントです。



そのくらい重い事情があるほうがいい。

「どうしても飼いたい」

「この犬のためなら何でもできる」

「この犬のために、自分にできることをしてあげたい」

できるだけ重い事情のほうが、犬も喜ぶはずです。

重い事情のほうが、犬を育てるために必要な「愛情・やる気・根気」が湧き出てきやすいのです。

初めて犬を飼うときの心構え その3

ペットを飼うときには、重い事情で飼い始める。